

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アマダ歴史記念館・受付棟	階数	地上1F
建設地	伊勢原市石田350番地	構造	RC造
用途地域	工業地域、22条地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年10月10日
敷地面積	10,947 m <sup>2</sup>	作成者	(株)竹中工務店
建築面積	2,799 m <sup>2</sup>	確認日	2016年10月25日
延床面積	2,407 m <sup>2</sup>	確認者	(株)竹中工務店



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.2** ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 88% (81 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 88% (81 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 88% (81 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 「水庭と共生する和のサステイナブル建築」をコンセプトに、庇による温熱環境制御、卓越風を活かした自然換気、地域の植生を活かしたランドスケープなど、風・水・光の自然のエネルギーを利用しながら、省エネルギーで快適な建築を目指す。		<b>その他</b> 和室エリアは窓開口により自然換気を行なえる対応をしている。既存の植栽を活かしながら、適切に移植を行い新たな植栽計画を行っている。
<b>Q1 室内環境</b> 各室用途に合わせた空調・照明計画を設定している。庇やブラインドを用いて日射の制御を行っている。	<b>Q2 サービス性能</b> 適切な維持管理機能を確保する。また、更新性も考慮し設備材料の選定を行っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地周辺の景観に考慮し、植栽計画と外構計画を実施している。
<b>LR1 エネルギー</b> 大空間の展示室に対し、クールチューブを用いた換気計画を行っている。また、建物のエネルギー使用量を把握し、妥当性を判断できるよう対応している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 建物の上水系統は、井水をろ過した系統より供給しており、また衛生器具の節水化に努め、資源の有効活用にも努めている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地周辺への光害に配慮した屋外照明計画を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される